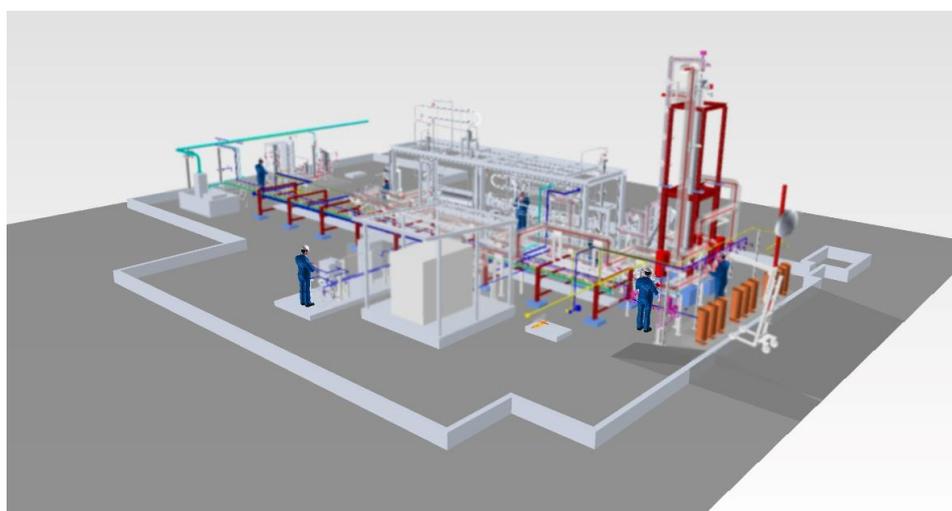


日本触媒と三菱重工、アンモニア分解システムの商用化に向け NEDO「競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業」に採択

- ◆ アンモニアを水素キャリアとする水素サプライチェーン構築に向け、技術開発を推進
- ◆ 商業規模の実証プラントの基本設計、アンモニア分解触媒の耐久性検証を中心とした要素技術の開発を実施



アンモニア分解パイロットプラント (3D)

株式会社日本触媒（社長：野田 和宏、本社：大阪市中央区、以下、日本触媒）、三菱重工業株式会社（社長：伊藤 栄作、本社：東京都千代田区、以下、三菱重工）は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募した「競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業」に応募し、採択されました。

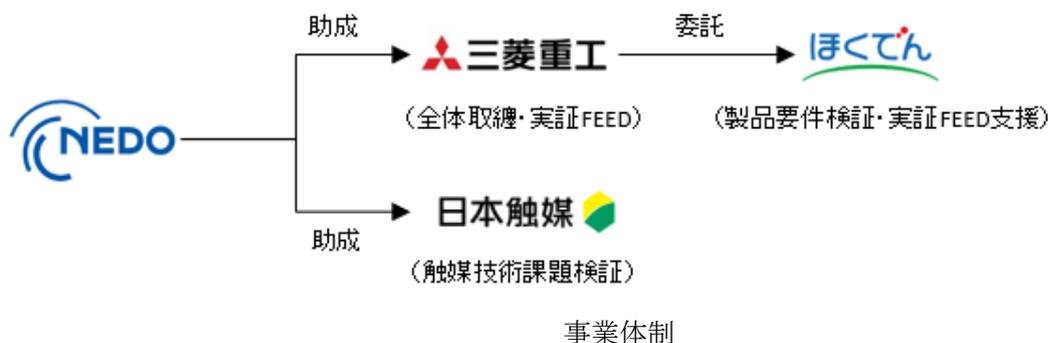
採択された事業は、アンモニアを水素キャリア（水素の貯蔵・運搬媒体）とする水素サプライチェーン構築に向けた技術開発を目的とし、水素需要地の近くで中規模・分散型のアンモニア分解技術の開発を進めるもので、低温活性型アンモニア分解触媒に一般的に使用される貴金属を用いず、独自に開発した低温で高活性かつ高耐久性を備えたアンモニア分解触媒を用いて、蒸気や排ガスを利用したアンモニア分解技術の開発を推進します。この革新的な技術により、社会実装に向けた課題の検証を行います。

2社は今回の採択を受け、商業規模の実証プラントによる長期試験を念頭に置き、2027年度までの事

業期間中に以下の活動をします。三菱重工は、これまでの豊富なアンモニアプラントの建設実績に基づくアンモニアハンドリングの知見を生かし、実証プラントの基本設計（Front End Engineering Design：FEED）を実施します。三菱重工は北海道電力株式会社（社長：齋藤 晋氏、本社：札幌市中央区、以下、北海道電力）の支援を得て、製品化に必要な技術課題の解決を目標に、実証プラントの仕様を固めます。日本触媒は、アクリル酸触媒をはじめとするプロセス触媒や、自動車・排ガス処理用などの触媒開発・実用化において有する豊富な実績と技術に基づく知見を生かし、アンモニア分解触媒の耐久性検証を中心とした要素技術の開発を推進します。

三菱重工と日本触媒は、水素・アンモニアサプライチェーンの構築に寄与するアンモニア分解システム開発を推進することで、脱炭素技術の早期確立・社会実装を図るとともに、持続可能なカーボンニュートラル社会の実現へ貢献していきます。

北海道電力は、2050年の北海道におけるエネルギー全体のカーボンニュートラルの実現を目指し、再生可能エネルギー導入拡大や電源の脱炭素化、苫小牧地域をはじめとした道内各地でアンモニア・水素・CCUSに関わる取り組みを推進しています。



以上

日本触媒について：

1941年の創業以来、自社開発の触媒技術を核としてグローバルに活動する化学メーカー。紙おむつに使われ、世界1位のシェアを誇る高吸水性樹脂（2025年当社調べ）やリチウムイオン電池材料など、人と社会から必要とされる素材・ソリューションをお届けします。グループ企業理念「TechnoAmenity ～私たちはテクノロジーをもって人と社会に豊かさと快適さを提供します」のもと、長年培ってきた技術力を通じて皆様に豊かさ・快適さを提供しています。

詳しくはこちら：<https://www.shokubai.co.jp>

【問い合わせ先】

株式会社日本触媒 コーポレート・コミュニケーション部

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 4-1-1

E-mail: shokubai@shokubai.co.jp

三菱重工業株式会社 グループ戦略推進室 広報部 広報グループ

〒100-8332 東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

E-mail: mhi-mediarelations@mhi.com